



特集

ロボット支援下 前立腺手術が始まりました

〈2017.9月～2017.12月の活動報告〉

〈健診センターからのお知らせ〉

〈地域連携だより〉

〈看護師レポート〉

「特集」

『ロボット支援下 前立腺手術が始まりました』

当院では、昨年、腹腔鏡下手術支援ロボット「ダビンチ サージカルシステム」を導入しました。実際に手術に当たるスタッフのトレーニングなど準備期間を経て、平成30年1月より本格的な運用を始めています。今後さらなる先進的医療の提供が期待できる同システムの特徴について、泌尿器科原田吉将部長に話を聞きました。

本年より腹腔鏡下手術支援ロボット「ダビンチ サージカルシステム」による前立腺がんの手術がよいよ開始となりました。この手術支援ロボットは現在全国で約250台が導入され、滋賀県では4台目、湖北・湖東地区では初めてとなります。

手術支援ロボット、ダビンチとは

ロボットといっても機械が自動的に手術を行う訳ではありません。術者が内視鏡からの3Dのハイビジョン映像を見ながら、専用のコントローラーを用いて遠隔操作を行い、ロボットが体内に挿入された手術器具を忠実に再現することで手術を行います。手術をするのはあくまで術者であり、ロボットはこれを支援する訳です。

ダビンチの特徴

このシステムの優れたところは、立体的な最大10倍の拡大視野のもと、自由に動く関節を持った鉗子（ロボットアーム）を使用し、手ぶれ防止機能により細かい手術操作が容易にできることです。前立腺がん手術では骨盤の奥深い術野で高度で繊細な操作が要求されます。これまでより傷が小さく出血も少なく、術後の回復も早いなど体にやさしい手術であるとともに、術後の合併症である尿失禁や性機能障害を防いだり、がんの根治性を高めることが期待できます。

ダビンチ手術チーム

ダビンチ手術を安全に行うためには、手術室ス



ダビンチによる前立腺がん手術 導入の様子

ッがしっかりと連携をとるチーム医療がかかせません。当院では泌尿器科医、麻酔科医、看護師、臨床工学技士らによるダビンチ手術チームを結成し、十分な準備とトレーニングを行い、大学の協力を得ながら実施しております。

前立腺がんについて

前立腺がんは近年、中高年に急増しており、日本人男性のがん罹患率で第1位、がん死亡率で第4位となっています。初期には特徴的な自覚症状がないために早期に診断するためには、直腸からの触診や血液検査（PSA検査）による検診が必要です。この簡単な血液検査による検診が滋賀県、特に湖北地域では遅れており、中には骨に転移した状態で見つかるこ

ともあります。転移のない早期に診断できれば手術や放射線治療などで根治が期待できます。50歳以上の男性には是非、人間ドックやかかりつけ医で血液検査（PSA検査）を受けることをお勧めします。

これからのダビンチ手術

現在は前立腺がんおよび腎がん（部分切除）のみ保険適応となっておりますが、本年4月より胃がんや大腸がん、子宮がんにも保険が適応となり、今後ダビンチ手術が増加するものと思われます。当院はこれからも湖北・湖東の住民の皆様様に先進的でやさしい医療を提供できるよう努めていきたいと考えています。



術者の遠隔操作による手術風景



3Dモニターによる手術野



ダビンチチームメンバー

泌尿器科部長
原田 吉将



日本泌尿器科学会専門医、指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
da Vinci 支援手術教育プログラム終了

泌尿器科部長
草場 拓人



日本泌尿器科学会専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
da Vinci 支援手術教育プログラム終了

活動報告

9月 米原市総合防災訓練が実施されました/9月3日(日)

米原市総合防災訓練がグリーンパーク山東を会場に開催され、当院救護班が参加しました。マグニチュード7.6規模の地震が起こり、大規模な停電、土砂災害の発生という想定で、消防隊と協力し救護活動を行いました。実際に訓練が始まると想定していなかったことも起こり、容易にはいかない部分もあったものの、反省点や改善点を見いだすことができ、次回に生かすことができる訓練となりました。



9月 第11回地域医療意見交換会を開催しました/9月30日(土)

恒例となりました地域医療意見交換会が今年も9月30日北ピワコホテルグラツィエで行われました。院外から46人、院内から85人の方々にご参加頂き、今年も盛大に執り行うことができました。講演会では当院の小児新生児科副部長の小豆澤先生と小児精神科部長の沖野先生から講演を頂き、日々の臨床に役立つ実践的な情報をいただきました。



10月 平成29年度大規模災害訓練を実施しました/10月21日(土)

長浜赤十字病院敷地内を訓練会場に「災害拠点病院として、関係機関との連携、迅速・的確に対応できる医療体制の確立と職員の防災意識の高揚を図ること」を目的として、職員、保健所、看護学生の総勢308名の参加者で災害訓練を実施いたしました。台風21号が日本列島に接近する影響で小雨の降る中の訓練でしたが、湖北地方の災害対策本部の中心となる長浜保健所職員の方々をはじめ、傷病者役として滋賀県立看護専門学校生の皆さんにもご参加いただきました。



11月 中学生職場体験を実施しました/11月6日(月)~10日(金)

11月6日(月)~10日(金)の5日間、長浜市立北中学校2年生の生徒さん4名に職場体験学習の一環として、当院の職場体験をしていただきました。病院を選んだ理由として、医師・看護師を目指しているや医療事務を勧められているなど、人の役に立てる仕事であるため、とのことでした。このような活動を通して、一人でも多くの若い世代の方たちに医療への関心を深めていただきたいと思います。



12月 緊急被ばく医療派遣チーム研修/12月7日(木)

当院が平成29年4月から「基幹原子力災害拠点病院」に指定されたことを受けて、広島大学緊急被ばく医療推進センターから講師をお迎えし、原子力災害発生時における医療派遣チームの隊員養成研修を開催しました。実習では、実際に患者さんが搬送されてきた、との想定のもとに、受け入れ場所の養生や搬入手順の確認の他、防護具を着用して処置を行うなど、臨場感あふれる研修となりました。



12月 クリスマスコンサートを開催しました/12月16日(土)

本館1階のエントランスホールで、恒例のクリスマスコンサートを開催しました。昨年に引き続き、湖北オーケストラ、長浜市民コーラス、長浜ギター・マンドリン・アンサンブルの皆さまに出演していただきました。クリスマスの定番曲「ジングルベル」「サンタが街にやってきた」「きよしこの夜」などの演奏や、歌謡曲で日本横断といったユニークな企画もありました。ホールには多くの方にお越しいただき、クリスマス独特の華やかな雰囲気を堪能しつつ、楽しい時間を過ごしていただきました。



健診センターからのお知らせ

平成30年4月から将来の脳梗塞・心筋梗塞のリスクを知ることができる動脈硬化検査（LOX-index）と心臓の負担の程度を見ることが出来る心不全指標検査（BNP検査）をオプション検査として開始します。動脈硬化を予防するためには、動脈硬化の現状と将来的なリスクの両面をチェックし、生活習慣を改善する事が大切です。ご家族に脳梗塞・心筋梗塞にかかった人がおられる方、血圧、LDLコレステロール、血糖値が高めで動脈硬化が気になる方におすすめです。料金は13,500円（税込）です。また同じく4月から、一泊二日ドックコースに骨密度測定検査（全身測定：腰椎・股関節含む）が加わりました。これにより体の脂肪率、骨量などがわかり、サルコペニア（筋肉減弱症）の診断もできます。検査の詳細につきましては、下記までお問い合わせ下さい。



お申し込み・お問い合わせ 健診センター ☎0749-68-3305（直通）

がかりつけ医紹介チラシを作成しました

このほど、湖北4病院地域連携担当者会では、湖北医師会の先生方のご協力をいただき、湖北地域各診療所の紹介チラシを作成しました。状態が安定して服薬管理が良好な外来患者さまや、退院調整中の患者さまにお近くの「かかりつけ医」を探していただく際、ご利用いただければ幸いです。（チラシスタンドは正面玄関入口に設置しています。）



地域連携だより

長浜赤十字病院・連携医療機関のご紹介

✓ 長浜赤十字病院の役割とかかりつけ医との地域連携

本院は、急性期医療を行うとともに地域医療支援病院として、地域全体で適切かつ高度な医療サービスを提供する機関と連携しています。地域住民のみなさまに一貫した切れ目のない医療を提供するために、病院-診療所、病院-病棟間で診療情報の共有を行うび当院救命救急センターが対応します。

✓ 住民のみなさまへ

よりよい医療の提供をしていくため、かかりつけ医（開業医）からのご紹介状（診療情報提供書）を持参してのご来院をお願いします。また、病状が安定してきた患者さまには、ご紹介元診療所やご自宅近くの医院・クリニック（かかりつけ医）をご紹介させていただきます。

るために、かかりつけ医・近隣医療-病院間で診療情報の共有を行うび当院救命救急センターが対応します。

ご来院をお願いします。また、病状が安定してきた患者さまには、ご紹介元診療所やご自宅近くの医院・クリニック（かかりつけ医）をご紹介させていただきます。



よねざわ皮膚科クリニック

米澤先生からのメッセージ

皮膚表面に見えるもの、皮膚から触ってしこりを触れるものなどはまず皮膚科で診察します。赤ちゃんからご高齢の方まで、年齢を問わず幅広く診療しております。



《医師》 米澤 理雄
 《診療科》 皮膚科
 《住所》 長浜市八幡中山町318-35
 《電話》 0749-53-2980
 《往診診療》 無 《訪問診療》 無
 《URL》 <https://www.yonezawahifuka.com/>

	診療時間	月	火	水	木	金	土
午前	8:30~12:00	○	○	○	×	○	○
午後	15:00~18:30	○	○	○	×	○	△

※日曜日、木曜日は休診です。
 ※ただし、土曜日は15:00~17:30です。

工藤神経内科クリニック

工藤先生からのメッセージ

神経内科クリニックとありますように慢性の神経系の障害や複雑な症状の経過などに寄り添って患者様の生活に役立てたいと考えております。

当院には、CTスキャンがあり、頭部外傷や突然のくも膜下出血などの診断が可能です。また、睡眠時無呼吸症候群の診断と治療も行っております。さらに 禁煙外来もあり、皆さんの喫煙に関連した癌や血管系の疾患の予防に役立っております。顔面のけいれんや眼瞼けいれんにボトックス治療をしています。



《医師》 工藤 寛
 《診療科》 内科、神経内科
 《住所》 米原市下多良3-36
 《電話》 0749-52-6760
 《往診診療》 有 《訪問診療》 有

	診療時間	月	火	水	木	金	土
午前	9:00~12:00	○	○	○	×	○	○
午後	15:00~18:00	○	○	○	×	○	×

※日曜日、祝日は休診日です。

おくのこどもクリニック

奥野先生からのメッセージ

滋賀医大、国立循環器病センター、長浜日赤などの病院勤務医を約20年経験した後、2006年に小児科専門のクリニックを開院。

院長は日本小児科学会認定小児科専門医、日本小児科医会地域総合小児科医療認定医、日本小児循環器学会評議員でこどもの心臓病、川崎病の診療も行っています。また、夜尿症の治療も数多く取り組んでいます。



《医師》 奥野 昌彦
 《診療科》 小児科
 《住所》 長浜市南高田町195番地
 《電話》 0749-62-2773
 《往診診療》 無 《訪問診療》 無
 《URL》 <http://www.okunokodomo.jp/>

	診療時間	月	火	水	木	金	土
午前	9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
予防接種 乳幼児健診	13:20~14:50	○	×	○	×	○	×
午後	16:00~19:00	○	○	○	×	○	×

※木曜午後、土曜午後、日曜日、祝日は休診日です。

下村歯科医院

下村先生からのメッセージ

祖父の代に近江長岡の地で開院し、まもなく100年を迎えようとしています。これもひとえに地域の皆様のおかげと感謝しております。

当院では、皆様の健康な生活のお手伝いをさせて頂ける様、色々な病気をお持ちの方に対しても、地域医療支援病院と連携し安心な歯科医療を提供させて頂きたいと思っております。



《医師》 下村 卓也
 《診療科》 一般歯科、小児歯科、矯正歯科、顎矯正、歯周病治療、インプラント、レーザー治療、審美歯科、予防歯科、口腔外科、アタッチメント義歯、スポーツマウスピース
 《住所》 米原市長岡1599-3
 《電話》 0749-55-0045
 《往診診療》 有 《訪問診療》 有
 《URL》 <http://www.shimomura-dental.com/>

	診療時間	月	火	水	木	金	土
午前	9:00~12:00	○	○	○	×	○	○
午後	14:00~18:00	○	○	○	×	○	△

※木曜、日曜日、祝日は休診日です。
 ※土曜日は17:00まで。

看護師レポート

～当院のフットケア外来を紹介します～

皮膚・排泄ケア認定看護師 中川 祐子
糖尿病看護認定看護師 臼井 晴美

フットケア外来とは

資格を持った看護師が、医師の指示の元、患者さんの足の状態を観察し、糖尿病の合併症である「糖尿病性足病変」に対して、予防や異常の早期発見を行う外来です。

フットケア外来では何をしているの？

患者さんの足の状態に合わせて、血液の流れの評価や糖尿病性神経障害の評価を行い、^{へんち}胼胝（たこ）や^{けいがん}鶏眼（うおのめ）の処置、爪切りなどを行っています。また、自宅でも足の手入れができるように正しい爪の切り方や観察方法などについてお伝えしています。

フットケアを受けている患者さんの声

昨年の4月から50名以上の患者さんがフットケア外来を定期的を受診されています。フットケア後は「足が温かくなって軽くなった」や胼胝（たこ）の処置後は「痛みが無くなって歩きやすくなった」などの声も聞かれます。

足を守ることは健康で自分らしい生活を過ごすことに繋がります。

足の手入れができなくてお困りの方は当院のフットケア外来にご相談ください。



今回の表紙

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017 滋賀医科大学に参加しました

今回の表紙は、昨年10月に滋賀医科大学で開催されたリレー・フォー・ライフ・ジャパン2017の様子です。リレー・フォー・ライフとは、がん患者支援チャリティー活動で、当院から14名がリレーウォークや相談ブースに参加しました。昨年に引き続き学生が主体となるカレッジリレーでの開催。参加者からも、若い世代のがん啓発活動に期待する声や、こういった取り組みが他の地域にも広がることを望む声が聞かれました。



理念

「人道・博愛」の赤十字精神にのっとり、やさしさのある全人的医療を提供します

基本方針

1. 患者さまの人権を尊重し、安全で高度な医療を提供します
2. 地域の保健・医療機関との連携を強化します
3. 救急医療を充実します
4. 災害救護、国際救援に積極的に参加します
5. 最善の医療を提供するため常に研修・研鑽に努めます

患者さまの権利宣言

1. 人権が尊重され、良質で適切な医療を受ける権利
2. 医療上の情報・説明を受け、同意したのち医療を受ける権利
3. 治療方法などを自らの意志で選択する権利
4. プライバシーが保護される権利
5. 他の医師等の意見（セカンドオピニオン）を求める権利